

ブラジルの利下げについて

2012年6月1日

5月30日、ブラジル中央銀行は、同国の政策金利(SELIC(翌日物金利))を0.5%引き下げ、8.5%にすることを発表しました。これによって昨年8月に利下げに転じて以降7回、合計で4.0%の引き下げ幅となり、これまでの過去最低水準となりました。

《市場の予想通り、追加利下げ発表》

ブラジル中央銀行の政策金利引き下げは、ほぼ市場の予想通りでした。

ブラジルが利下げを行った背景には、①鉱工業生産の低迷等、ブラジル国内が景気減速傾向にあること、②国内の物価上昇率(インフレ率)が落ち着いていること、③ギリシアの再選挙、スペインの金融不安など欧州債務問題により世界景気の先行きに不透明感が残ること、などがあげられます。

《今後の見通し》

●景気見通し

IMF(国際通貨基金)では、ブラジル経済は、2012年には+3.0%、2013年には+4.1%まで回復すると予測しています(IMF World Economic Outlook 2012年4月)。

欧州債務問題の悪影響という懸念材料はありますが、米国景気の底堅さ、中国政府による経済成長率の引き上げ観測など、海外景気の持ち直しによる資源需要の回復やリアル安による輸出の拡大、金融緩和による個人消費の回復等により景気底入れが期待できます。

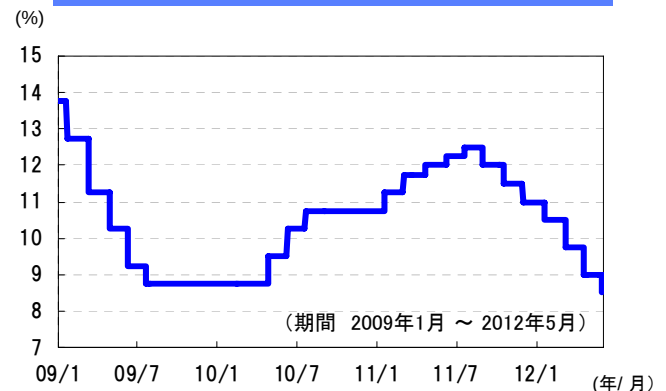
●政策金利見通し

現在の政策金利8.5%は、過去最低水準まで低下していること、これまでの利下げによる景気回復効果が期待されることなどから、今後の政策金利の下げ余地は限定的とみられます。

●為替見通し

ブラジルリアルは、3月から軟調な展開が続き、5月中旬には節目とみられた1ドル2.0リアル、1リアル40円を下回る水準まで下落していました。しかし、中央銀行によるリアル買い介入、「足元のリアル安は行き過ぎ」という中央銀行幹部の発言からすると、リアル高抑制の姿勢は変化しています。当局が望むリアルの下限が示されたことでリアル安の歯止めになることが想定されます。ブラジルは他の新興国に比べても比較的高金利であることや資源国の優位性もあることから、ブラジルリアルは徐々に持ち直すとみています。

《ブラジルの政策金利》



《ブラジルリアルの対円推移》



●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。